

1. 《平成28年度法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《施設理念》

児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛護・上敬下愛」に基づき、利用者の人権を尊重し、地域から信頼される施設を目指す。

3. 《基本方針》

- ①利用者の最善の利益を目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する。
- ②母と子の権利擁護の為に、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する。

4. 《ハーバー大慈における中長期ヴィジョン》

- ①入所者が金銭的、精神的、社会的に自立出来る様、自立に繋がる支援をする。
また、全職員が、そのヴィジョンに対し、共通の意識を持ち、業務を遂行する。
- ②内部組織の強化。
- ③地域に貢献する。

5. 《目標》

- ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする。
 - A) 入所時、入所後にケースワークを行い、母子と相談した上で、自立に向けた目標やプランを設定する。
 - B) 入所者の精神の安定を図る為に、必要に応じてケースワークの回数を増やす。
 - C) 金銭管理が必要な場合、金銭の預かりを行う。
 - D) 退所後、必要に応じて他機関との関係調整等、アフターケアを行う。
 - E) 児童にとって、より良い養育の為に支援を行う。
 - ・小、中学生の学力向上の為に勉強会。
 - ・母親への経済的自立への支援（子どもの病時保育等）。

今年度も自立へのプロセスを意識し、ニーズに沿った支援を行った。また、ここ数年、入所者の心に伝わる支援や伝え方、信頼関係の構築を特に意識し、処遇を行ってきたので、金銭管理等、前年より一歩踏み込んだ支援が行える世帯も増えた。しかし、その反面、結果が伴わないケースもあったので、上手くいったケース、上手くいかなかったケースの両方を職員間できちんと評価し、経験として今後の処遇に繋げていきたい。
アフターケアは、4世帯行った。（児童の学習支援→1世帯、児童のみ退所した為、金銭管理、関係機関との連携→1世帯、金銭管理、病院等の付き添い、関係機関との連携、自宅訪問→2世帯。）今後も地域貢献の一環としてケアを行っていきたい。

②職員の資質の向上。

- A) 各職員が、自分自身の資質を理解し、資質向上に必要な研修（コーチング研修等）に積極的に参加する。
- B) 各職員がマニュアルに縛られず、自ら考え行動出来る様に、会議等を通し価値観の共有を図る。

職員全体の経験年数が上がった事もあり、自ら考え行動する姿が多く見られる様になった。また、職員による簡易なミスも減少しており、良い方向に向かっているが、来年度は職員が1名新しく入り、体制等も少し変わる為、引き続き、職員同士の関係構築を図り、質の高い支援に繋げていきたい。また、全職員が経験年数にとらわれず柔軟性を持ち、施設として前進していける様に業務に取り組んでいきたい。

③リフレッシュ保育事業を通して、子育て支援を行う。

- A) 祝日の利用者が多いので、必要に応じて祝日の職員の出勤人数を増やし、受け入れの枠を広げる。
- B) リフレッシュ保育事業の広報活動（広告の配布やインターネットへの掲載）。

今年度もリフレッシュ保育を通して、地域の子育て支援を行い、依頼があった子どもを預かる他、子育ての相談を行った。今後も地域の方々の子育てニーズに応えられる様、また、困った際は利用してもらえる様に、職員の体制や資質向上に努めていきたい。
※リフレッシュ保育の利用者数等は、“12.《リフレッシュ保育》”を参照。

<入居者の異動利用状況>

月別 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍数		20	20	20	19	19	19	19	20	20	20	20	19	235
		45	45	45	43	43	43	43	45	43	43	43	41	522
入所	夫の酒乱 暴行												1	1
													2	2
	住宅 喪失							1						1
								2						2
	その他													
退所	公営住宅 入居													
	民間住宅 入居			1					0			1		2
				2					1			2		5
	復縁 再婚												1	1
													2	2
	その他								0					
短期保護	母子							1	1				1	3
								2	2				3	7
	婦人	1	1				1	1	1	1	1	1		8

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、2世帯5名 婦人は6名 延人数8名だった。

6. 《健康診断》

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便（O－157）	月1回	—	—

7. 《保健衛生》

害虫駆除を行った。（各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室・倉庫）

業者に依頼し、各居室のエアコン清掃、排水管清掃（台所、浴室、洗濯機置場）、廊下清掃を行った。

8. 《広報》

毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。

9. 《行事内容》

①母と子の運動会（湊小学校）

→今年度は、第50回目となった為、例年といくつかプログラムを変更して行った。○×クイズや職員による施設対抗リレー等、来年以降もプログラムに取り入れてほしい、と入所者より声が挙がったものもあった。来年度も楽しんで参加してもらえ企画を提案していきたい。また、OBの方にも数名声を掛け、参加してもらった。「来年度も来たい。」と言って頂いたので、今後もアフターケアとして関わっていきたい。

②児童キャンプ（香住）

→神戸市の母子生活支援施設（7施設）の児童（小学4年生以上）で合同キャンプを行い、施設単位ではなく、他施設の児童と班を編成し行動した。慣れた環境ではなく、初めて出会う同世代と2泊3日、生活を共にする事で、一からの人間関係作り等、社会性を養う経験となった。また、初めて海に入るという児童もあり、良い体験となった。

③個別対応遊び（月1回）

→今年度は13回行った内、9回は食事作りやお菓子作り等、食に関する内容にした。年々、家庭内の食生活が変わってきており、外食が中心で、家では作らないという世帯が増えてきている為、食育の一環として行った。今後も児童に食の大切さや手作りの美味しさ、楽しさ等を伝えていきたい。

④施設内クリスマス会

→数名、退所を控えている入所者が居た事もあり、メッセージを送る為に、職員の出し物は歌と演奏（ハンドベル・キーボード・ギター）を行った。集中や緊張等、日頃とは違った職員の表情に感動、又は喜んでもらったので行って良かった。また、食事も手作りにこだわり提供した。「年々、レベルが上がり、内容も凝っている。」と入所者より言って頂いたので、今後もひとつひとつの業務に想いをもち、取り組んでいきたい。

○年間行事（月極・・・母の会・避難訓練）

月	日	行事	月	日	行事
4	8	昼食会	10	1	昼食会
	12	昼食会		15	昼食会
	16	個別対応遊び（卓球）		16	OB会
				23	児童エンジョイ（USJ）
				29	個別対応遊び（アンパンマンミュージアム）
					ハロウィン
				30	アイススケート招待
5	7	昼食会	11	5	昼食会
	8	母子生活支援施設協議会		12	個別対応遊び
		母と子の運動会（湊小学校）			（シチュードリア・ホットケーキ作り）
	21	昼食会		19	昼食会
	28	個別対応遊び（弁当作り・ピクニック）		26	施設内忘年会
6	2	害虫駆除	12	10	昼食会
	4	昼食会		17	施設内クリスマス会
	11	個別対応遊び（お菓子作り）		26	個別対応遊び（夕食作り）
	18	昼食会		27	昼食会
	19	親子エンジョイ（ブルーメの丘）			
	26	卓球大会			
7	2	個別対応遊び（七夕の飾り作り・お菓子作り）	1	6	個別対応遊び（編み物）
	7	七夕（鮭寿司・豚汁）			昼食会
	21	昼食会		10	個別対応遊び（もちつき）
	25	昼食会		15	母子生活支援施設協議会
	26	昼食会			新春母と子の集い
	28	海釣り招待		21	新年会
8	1～	母子生活支援施設協議会	2	3	節分（巻き寿司・豚汁）
	3	児童キャンプ（香住）			個別対応遊び（巻き寿司作り）
	3	昼食会		4	昼食会
	4	料理教室招待		18	昼食会
	5	昼食会		24～	母子生活支援施設協議会
	9～	個別対応遊び（丹波篠山キャンプ）		26	児童スキー（ハチ高原）
	10				
	10	昼食会			
	16	昼食会			
	18	個別対応遊び（カレー作り）			
	19	昼食会			
	22	昼食会			
	23	地藏盆			
	30	昼食会			
9	1	昼食会	3	3	ひな祭り（鮭寿司・豚汁）
	4	母子生活支援施設協議会		22	昼食会
		バス旅行（姫路セントラルパーク）		24	昼食会
	10	焼肉パーティー		25	個別対応遊び（みたらし団子作り・茶道体験）
	17	昼食会			
		個別対応遊び（魚釣り）			

10. 《学習指導》

対象者	頻度	内容
小学生	各児童週1～2回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上の児童） 個々の能力に応じて、担当職員がプリントを作成し、学校の宿題後に行った。（児童の能力に合わせて、必要な児童にはワークも購入した。）
	夏・冬の長期休みは、毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。

中学生	週1回	英語・数学 個々の能力に応じて、担当職員がプリントを用意した。中3には受験前、学習スペースを提供した。
	テスト前は2日間連続	テスト範囲。
	夏・冬の長期休みは、毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。

中学生 ・ 高校生	週1～2回（2時間）	教科全般 神戸大学の学生に家庭教師として来てもらい、1対1で学習指導をしてもらった。
-----------------	------------	---

11. 《会議》

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	主任・リーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設、こども福祉係・保護係等の各担当者）		

①職員会議（月1回開催）

→主任・リーダー会議の報告、行事の計画・反省、今後の方針等を話した。決められた時間内に終わる事が出来ているので、今後も必要な事を必要な時間で話し、有意義な会議にしていきたい。

②支援会議（月1回開催）

→主に、処遇に関する事について話をした。コーチング研修の効果等もあり、各担当者より、積極的な意見が出る様になっているので、今後も入所者により良い支援が行えるよう、話し合っていきたい。

③リスクマネジメント会議（月1回開催）

→ひと月分のヒヤリハット、事故報告書・相談記録・苦情報告書を議題に挙げ、対策等を話し合った。ひとつひとつのリスクに対し、各職員が高い意識を持ち、業務に取り組めるよう、今後とも会議を通し、意識の共有化を図っていきたい。

④主任・リーダー会議（月1回開催）

→昨年と同様、今後の予定や人事等、施設としての方向性を施設長、主任、リーダー、サブリーダーで話し合った。

⑤リフレ委員会（月１回開催）

→保育の環境面の話や行事の際の受け入れ人数等について、話し合った。今後も地域福祉の一環として、子育てニーズに貢献出来る様、議論を重ねたい。

⑥三者連絡会議（年２回以上開催）

→例年と同様、施設と役所（福祉）の方で入所者の現況報告を行った。情報の共有を行う事で、関係機関と連携が取れ、支援の幅も広がるので、引き続き、行っていきたい。

12. 《リフレッシュ保育》

①平成28年度年間延べ755人（昨年度年間延べ866人）

→前年度より111人、利用者数が減少した。日、祝日の利用者は以前に比べ増えているが、平日（月～土曜日）の利用者が減っている。要因として施設内の業務や学童との兼ね合いから、平日の利用を断らざるおえない状況が多々あったこと、保育園、幼稚園の認定こども園移行等が考えられる。今後も受け入れ体制等を整え、可能な範囲で受け入れを行い、利用者を増やしていきたい。また、引き続き、貼り紙等の広報活動を行い、地域のニーズに沿った子育て支援を行っていきたい。

平成28年度 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H28	55	49	35	52	68	61	73	80	90	65	53	74
前年比	-34	-27	-7	-11	-3	-16	+7	+10	-14	-1	-18	+3

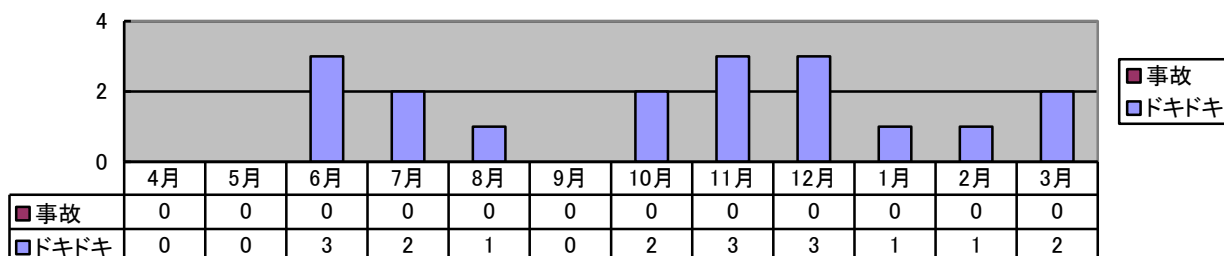
13. 《リスクマネジメント報告》

①平成28年度ヒヤリハット報告件数・・・18件（学童保育は除く）

※平成27年度報告件数34件（学童保育は除く）

→特に多い月はなく、職員による利用者への対応で確認ミスが多い。

ヒヤリ報告(件数)



②平成28年度ヒヤリハット以外のケガ報告件数（ケガノート） ※学童保育は除く

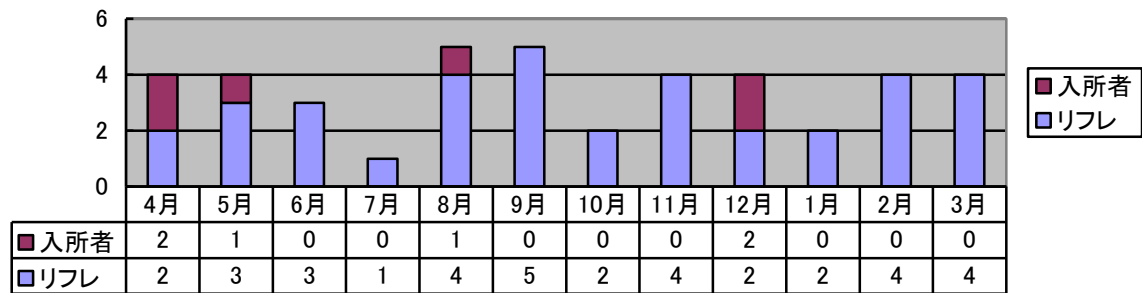
リフレッシュ保育・・・36件 入所者・・・6件

※27年度報告件数（学童保育は除く）

リフレッシュ保育・・・41件 入所者・・・9件

→リフレッシュ保育の発生数是不慮のケガが多い。入所者のケガは前年度に比べて減ったが、平日の預かりの際の件数は増えた。

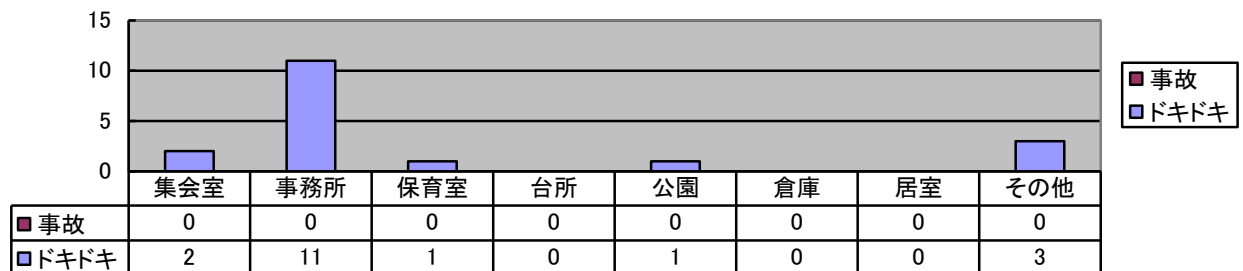
ケガ報告(件数)



③発生場所別件数

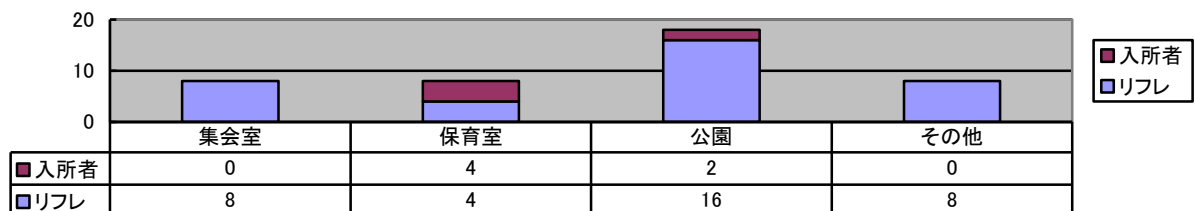
→その他は、入所児童の保育園お迎え時、病院付き添い中に起こったもの。

ヒヤリ報告(場所)



→リフレッシュ保育児童は保育室や公園で過ごす事が多い為、発生場所の件数もそれに比例している。(その他は移動中に起こったもの)

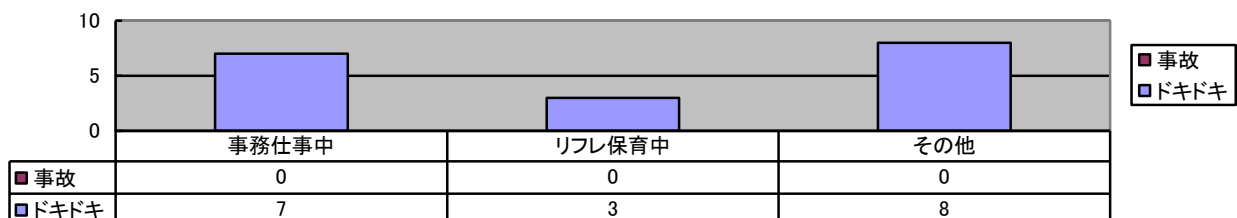
ケガ報告(場所)



④発生状況別件数

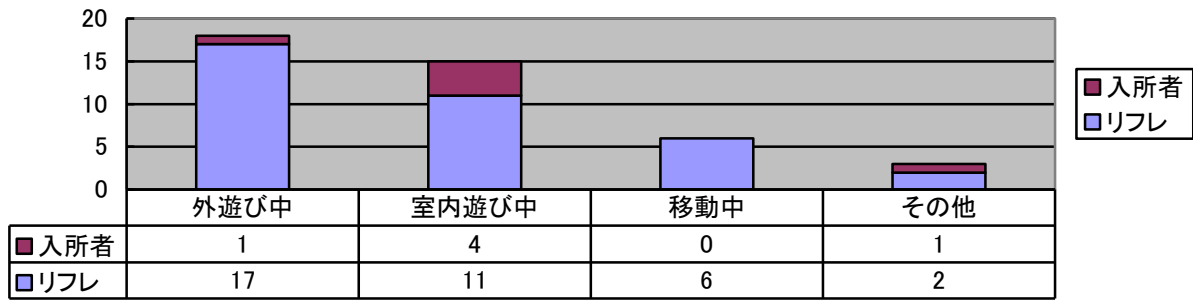
→その他は、書類提出忘れや、付き添い時に起こったもの。職員による事務的ミスが多いため、事務仕事中が多い。

ヒヤリ報告(状況)



→室内や公園での遊び中に起こる不慮のケガが多い。(リフレの“その他”は昼食中や乾燥肌による出血) 入所者のその他は個別対応遊び(調理)の際に起こったもの。

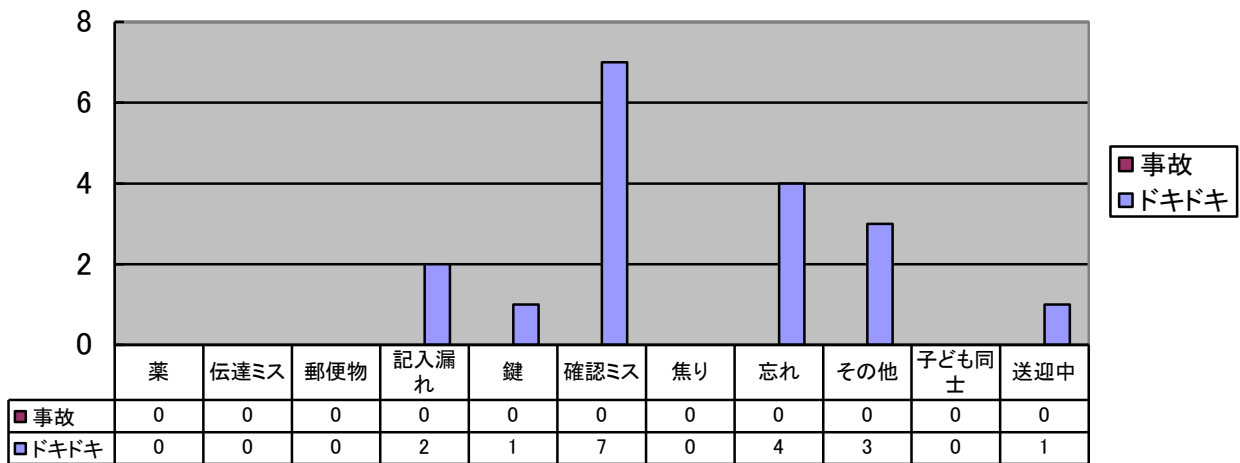
ケガ報告(状況)



⑤発生内容別件数

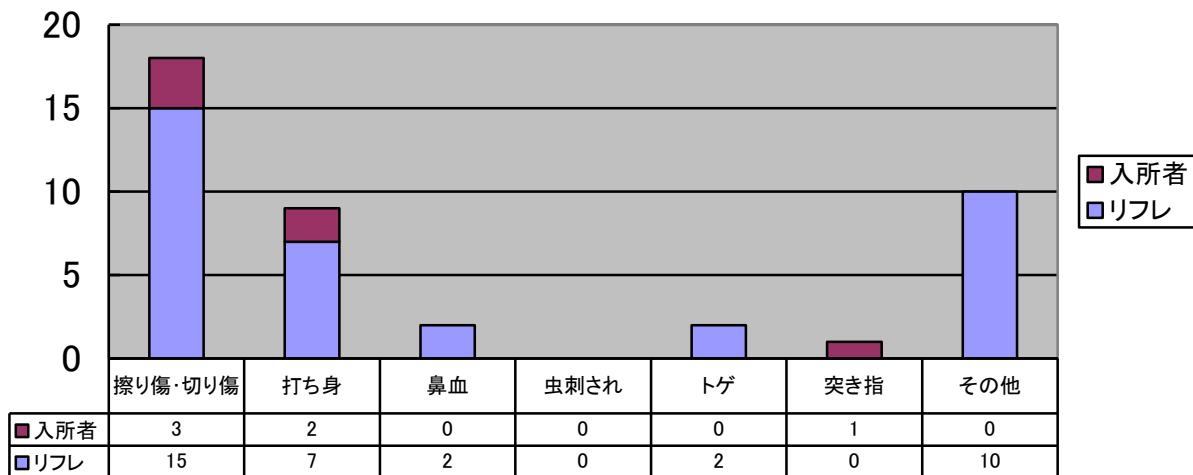
→思い込みによる確認ミスや忘れる事が多い。送迎中は入所児童のお迎え時に目を離して起こったもの。

ヒヤリ報告(内容)



→転ぶ等のケガが多い。その他は、口の中を噛んでしまった事などによるもの。

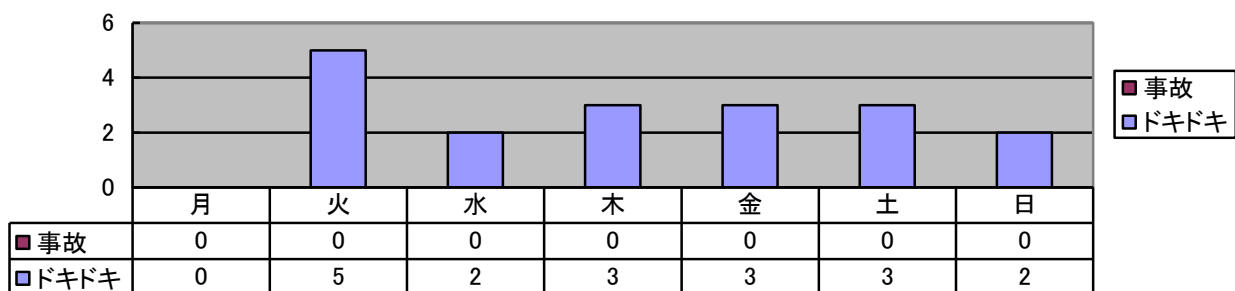
ケガ報告(内容)



⑥曜日別件数

→曜日によっての特記事項はないが、特に火曜日が多い。

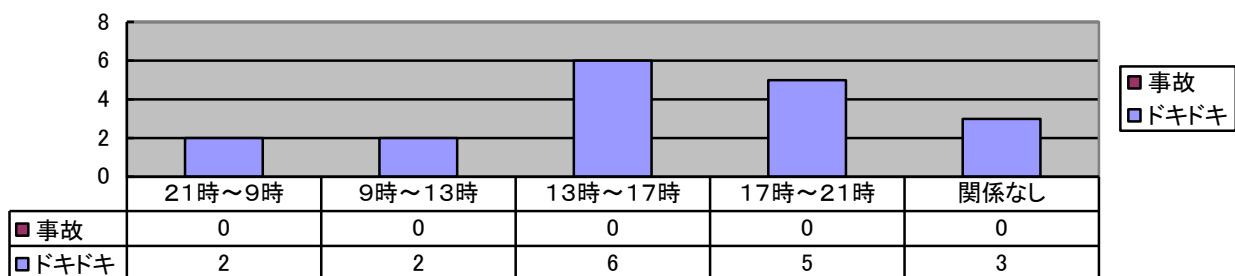
ヒヤリ報告(曜日)



⑦時間帯別件数

→職員が事務作業を行う、9～21時にかけて多い。

ヒヤリ報告(時間)



⑧まとめ

- ヒヤリ→今年度、発生内容別件数にその他として3件挙がっているが、利用者への対応中に関する配慮不足が含まれている。少し目を離すという事が、どれだけのリスクを抱える事になるのかを全職員が意識していく必要がある。また、忘れによるミスもある為、ひとつひとつの手順をおろそかにせず、リスクの軽減に努めたい。
- 事故→今年度、施設、リフレッシュ保育において事故報告はなかった為、次年度もゼロになるよう、リスクに対して高い意識を持ち業務に取り組んでいきたい。
- ケガ報告→転んだり等、未然に防ぐ事が難しい不慮のケガが多いが、全職員が共通の意識を持つ為に、行動の把握を行い、ケガの軽減に努めていきたい。

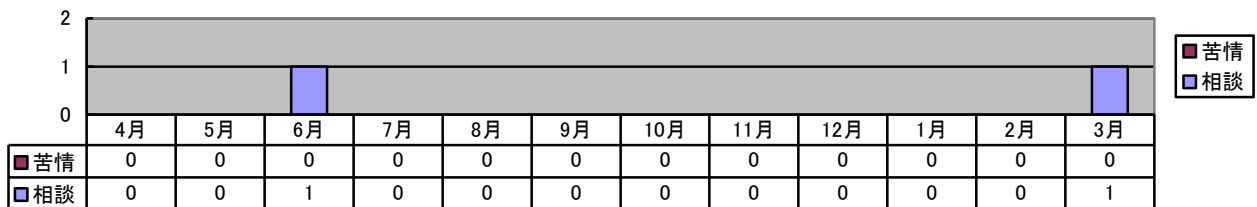
1 4. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

件数…苦情0件、相談2件

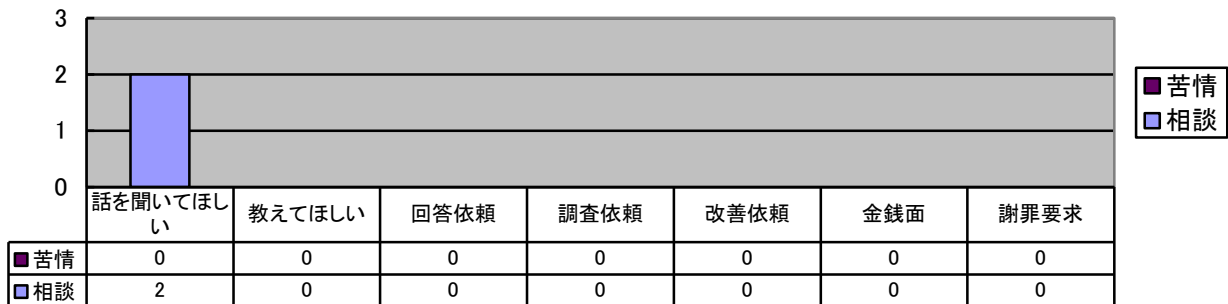
○報告件数

平成28年度				平成27年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	0件	2件		3件	2件	1件

苦情・相談報告(件数)



苦情・相談報告(要望)



○主な内容

相談→(元リフレッシュ保育利用者より) 息子が不登校になり、どうしたらよいか。
→(入所者より) 上の部屋の騒音について。

○まとめ

過去にリフレッシュ保育を利用されていた保護者からの電話相談と施設内の騒音についての2件だった。リフレッシュ保育を利用されていた方からの相談は初めてだったが、話を聴くことによって利用者の不安を取り除くことができ、相談できる場所があることへの安心感を持ってもらえたと思うので、今後も入所者、利用者に関わらず、話を聴いていく様に努めていきたい。

15. 《総括》

- ・今年度、学習支援費助成制度を活用し、中高生を対象に家庭教師(神戸大学)による学習指導を新たに行った。入所児童の将来の選択肢を増やす為に今後も学習指導の強化を行っていききたいが、母親からの協力も必要な為、子どもの将来について、対象の母親と話しをし、進めていきたい。また母親が緊急で入院するという事が2度あった。日頃より体調面について声掛けし、仕事の量や生活習慣について話をしてきたが、実際に起こってしまった。その後、母親に万が一の事があった場合、頼れる親族等が居ない世帯もあるので、職員が対応出来るよう、全母親を対象に病歴等についてアンケートを実施した。今回の件を教訓とし、今後も各母親にはケースワーク等で体調面、将来について話しをしていきたい。
- ・今年度、第三者評価を受審した。日頃の業務を見つめ直す機会となったので、自分達の強みや弱み、施設として目指すべき姿を職員間でもう一度話し合い、入所者に寄り添った今後の処遇に繋げていきたい。